

第 5 回

熊本県議会

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会会議記録

令和2年2月18日

開 会 中

場所 第 3 委 員 会 室

## 第5回熊本県議会高速交通ネットワーク整備推進特別委員会会議記録

令和2年2月18日(火曜日)

午前9時59分開議

午前10時59分閉会

本日の会議に付した事件

高速交通体系に関する件

熊本都市圏交通に関する件

付託調査事件の閉会中の継続審査について

出席委員(16人)

委員長 高木健次  
副委員長 緒方勇二  
委員 前川 收  
委員 岩下 栄一  
委員 鎌田 聡  
委員 小早川 宗弘  
委員 田代 国広  
委員 前田 憲秀  
委員 河津 修司  
委員 松村 秀逸  
委員 高島 和男  
委員 大平 雄一  
委員 中村 亮彦  
委員 吉田 孝平  
委員 島田 稔  
委員 南部 隼平

欠席議員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

企画振興部

部長 山川 清徳

交通政策・情報局長 内田 清之

首席審議員兼交通政策課長 重見 忠宏

土木部

部長 宮部 静夫

道路都市局長 村上 義幸

道路整備課長 亀崎 直隆

首席審議員兼都市計画課長 坂井 秀一  
警察本部

交通部長 古庄 幸男

交通規制課管理官 坂本 昌弘

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 松本 浩明

政務調査課審議員 松永 隆則

午前9時59分開議

○高木健次委員長 おはようございます。

ただいまから第5回高速交通ネットワーク整備推進特別委員会を開催します。

なお、本委員会に2名の傍聴の申し込みが  
あっておりますので、これを認めることと  
いたします。

それでは、付託事件の審査に入ります。

まず、山川企画振興部長から総括説明を  
願います。

○山川企画振興部長 委員会開会に当たり  
まして、本委員会の付託案件の概要につ  
いて御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でござ  
います。

まず、中九州横断道路の大江―熊本間  
につきまして、1月14日の都市計画決定  
により、事業化に向けて県が行う全ての  
手続が完了いたしました。来年度の事業  
化に向けて、しっかりと取り組んでまい  
ります。

続いて、空港のコンセッションにつ  
きましては、委員の皆様には2月3日  
にごらんいただきましたように、国内線  
別棟ビルの整備が最終段階に入るなど、  
4月からの会社による空港全体の運  
営開始に向けた準備が着実に進んで  
います。

運営会社への出資や取締役の派遣、  
パートナーシップ協定の締結など、  
県と運営会社と

の連携体制の構築についても、引き続き手続を進めてまいります。

また、国際航空路線につきましては、ラオス航空による熊本—ラオス線が3月18日に就航予定となっておりますが、同社から就航延期の連絡があり、現在、日本政府と連携し、ラオス政府及びラオス航空と就航に向けた協議を継続しています。

一方で、日韓関係の悪化により運休していた韓国線については、2月6日にエアソウル及びティーウェイ航空、両社からソウル線の運航再開の通知があり、エアソウルは、ことし3月16日から週2便で、さらに、ティーウェイ航空は、4月17日から週4便で運航を再開することとなりました。

運航再開に向け、航空会社や旅行会社と連携し、利用促進及び路線安定化にこれまで以上に取り組んでまいります。

なお、感染が深刻化しております新型コロナウイルスへの対応状況でございますが、入国者対策としましては、阿蘇くまもと空港の検疫所におけるサーモグラフィを用いた乗客の体温計測や、航空会社による乗客への健康カードの配付などの水際対策が行われているところです。

国際線において、予約のキャンセルが見受けられるものの、各航空会社からは、現段階で運航自体への影響はないと聞いておるところです。

県内の鉄道・バス・タクシー事業者に対しても、感染防止対策の徹底や、従業員等の感染が確認された場合の連絡等をお願いしております。

今後、各事業者と情報共有を図りながら、県内公共交通機関における予防と蔓延防止に努めてまいります。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

将来の熊本都市道路ネットワークにつきましては、昨年12月25日に第3回の検討会を開

催いたしました。委員間で共有した熊本市を中心とした新たに必要な道路ネットワーク機能のイメージについて、熊本県の新たな広域道路交通計画への反映や短・中期的対策の検討を進めてまいります。

また、熊本におけるバスのあり方検討につきましては、昨年の3月から、県内バス事業者と県、熊本市で検討してまいりましたが、このたびバス事業者5社が共同経営に移行することに合意しました。

独占禁止法に関する特例法の施行後、速やかに共同経営が実施され、バスの利便性向上に向けた取り組みが推進されるよう、県としても必要な支援を行ってまいります。

以上、各案件につきまして概要を御説明いたしました。詳しくは各課長から御説明申し上げます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○高木健次委員長 続きまして、付託事件に関する事業概要等の説明に入ります。

まず、事業概要について説明を求めた後、一括して質疑を受けたいと思います。

委員会の運営を効率的に行うため、説明は、着座のまま、簡潔にお願いします。

では、執行部から説明をお願いします。  
亀崎道路整備課長。

○亀崎道路整備課長 道路整備課でございます。

着座にて説明をさせていただきます。

資料につきましては、変更した箇所を中心に説明させていただきます。変更部分につきましては、アンダーラインを引いておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、Iの1の高規格幹線道路等の整備について御説明を申し上げます。

12ページをお願いします。

地域高規格道路の中九州横断道路です。

現状の欄の1つ目の丸、熊本市から大津間

についてです。

2つ目、3つ目のポツの環境影響評価と都市計画手続でございますが、先ほど山川部長の総括説明にありましており、九州縦貫自動車道から国道325号までの約14キロメートル区間について、これまで進めてきたこれらの手続が、昨年12月の熊本県都市計画審議会の議を経て、1月14日に完了いたしました。

今後、国の新規事業採択時評価の手続が予定されておりますが、県としましては、来年度事業化に向け、しっかりと取り組んでまいります。

次に、15ページをお願いいたします。

熊本天草幹線道路です。

現状の欄の1つ目の丸、熊本市から宇城市三角町の3つ目のポツ、宇土市上網田町から宇城市三角町間の計画段階評価につきまして、先週2月12日に第2回目が開催され、政策目標やルート帯等について審議されました。

今後、沿線住民の意見を聞くためのオープンハウスの設置や、沿線自治体、企業等に対するヒアリング、地域住民へのアンケートが行われると聞いております。

次に、少し飛びまして18ページをお願いいたします。

各路線の建設促進活動について記載をしております。

12月の本委員会後の主な活動内容について御説明いたします。

まず初めに、①の九州中央自動車道です。

一番下になりますが、1月15日に、九州中央3県議員連盟の総会が宮崎市で開催され、総会後に事業の進捗状況や必要性を説明し、国に早期整備の要望を行いました。

19ページをお願いいたします。

一番上になりますが、1月20日に、知事、議長、九州横断議連、県選出国会議員、期成会が合同で、国土交通省に蘇陽一五ヶ瀬間の新規事業化の要望を行いました。

また、2月3日、4日には、熊本、宮崎両県の期成会による九州中央自動車道建設促進熊本・宮崎合同提言活動が実施され、九州地方整備局、国土交通省及び県選出国会議員の皆様へ要望活動を行っております。

次に、21ページをお願いいたします。

③の中九州横断道路です。

1月15日に、九州中央3県議員連盟の総会において、先ほどの九州中央自動車道と同様に、事業の進捗や必要性を説明し、国に早期整備の要望を行いました。

その下の1月20日でございますが、こちらも先ほどの九州中央自動車道と同様に、知事、議長、九州横断議連、県選出国会議員、期成会が合同で、国土交通省に大津一熊本間の新規事業化の要望を行いました。

また、1月22日、23日には、中九州・地域高規格道路促進期成会により、財務省、国土交通省、県選出国会議員への要望活動が行われております。

今後も引き続き、要望活動などを通して道路整備の必要性、予算の確保を訴え、事業を推進してまいりたいと思いますので、委員皆様の御支援をよろしくお願いいたします。

以上で道路整備課の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○重見交通政策課長 交通政策課でございます。

26ページをお願いいたします。

2、航空路線の利用促進について御説明いたします。

(1)空港の旅客者数の状況でございます。

阿蘇くまもと空港の4月から12月までの旅客者数は、国内線で、前年度に比べまして約6万7,000人増の248万1,000人、対前年度同期比102.8%、国際線で、前年度と比べて約3万6,000人減の10万2,000人、同じく74%、合計で約3万1,000人増の258万3,000人、同じく101.2%となっており、前年度の旅客者

数を上回っているところでございます。

続いて、27ページをお願いいたします。

(2)国内線の振興についてでございます。

国内線の各路線の旅客数につきましては、対前年度同期比で申し上げますと、東京線で100.8%、大阪線では112.1%、名古屋線では97.8%、沖縄線で104.4%という状況でございます。

続いて、28ページをお願いいたします。

こちらは、阿蘇くまもと空港の定期便の就航状況でございます。

国際線の状況につきましては、後ほど御説明をいたします。

30ページをお願いいたします。

こちらは、国内線の4月から12月の旅客数を表にまとめてございます。御確認をいただければと思います。

32ページをお願いいたします。

(3)国際線の振興についての1)現状でございます。

33ページをごらんください。

上から4つ目の丸でございます。

こちらはソウル線の現状でございますが、ソウル線は、現在、日韓関係の悪化の影響を受けまして運休しておりますが、ことし2月6日にエアソウル及びティーウェイ航空、両社からソウル線の運航再開の通知がございました。エアソウルにつきましては、ことし3月16日から週2便、月、木、そして、ティーウェイ航空は、4月17日から週4便、月、水、金、日で運航を再開する予定でございます。

続いて、35ページをお願いいたします。

一番下の丸でございます。

こちらは、ラオス線の現状でございます。

3月18日に就航予定となっておりますラオス線につきまして、1月23日にラオス航空から就航日を延期するとの連絡がございました。現時点で就航日は未定となっております。

続いて、37ページから38ページにかけてまして、参考の2から4でございますが、今年度のソウル線、大邱線、高雄線、香港線の月別利用状況でございます。

利用率につきましては、各表の一番右下の欄に記載してございます。ソウル線で平均70%、大邱線で45%、台湾・高雄線で77%、38ページに移っていただきまして、香港線で75%となっております。

次に、2)今後の取り組みについてでございます。

ソウル線、大邱線の部分でございますが、運航を再開するソウル線につきましては、航空会社や旅行会社と連携し、より一層の利用促進及び路線安定化に取り組むとともに、大邱線については、引き続き早期の運航再開に向けて航空会社との協議を継続してまいります。

39ページをお願いいたします。

一番下の丸でございます。

就航日を延期するとの連絡がありましたラオス線でございますが、現在、ラオス航空と就航に向けた協議を引き続き実施しているところでございます。熊本国際空港株式会社及び日本、ラオス双方の関係機関等と連携し、引き続き就航実現に向けて粘り強く取り組んでまいります。

次に、41ページをお願いいたします。

3、熊本空港の運営の民間委託とアクセス改善についてでございます。

(1)空港の運営の民間委託についてでございます。

42ページに移っていただきまして、2)今後の取り組みの部分でございます。

熊本国際空港株式会社への出資、非常勤取締役の派遣によりまして空港運営に参画しますとともに、同社とのパートナーシップ協定に基づき連携した取り組みを進めることにより、コンセッション方式の導入による空港の活性化の効果を地域振興や観光振興などのさ

まざまな分野に波及させてまいります。

44ページをお願いいたします。

(2) 空港の施設整備、活性化に向けた取り組みでございます。

恐縮でございます。少し飛びまして46ページをお願いいたします。

参考3、国内線別棟ビルの概略図、そして現況写真でございます。

4月7日の別棟ビル供用開始に向けまして、準備も最終段階に入っており、左下の写真、また、去る2月3日に現地で先生方にはごらんいただきましたとおり、航空会社のカウンターの設置など、内装工事が着々と進んでいるところでございます。

あわせて、別棟ビルの西側のサテライトビルにつきましても、物販や飲食に係る店舗の入居に向けた工事が進んでいる状況でございます。

飛びまして51ページをお願いいたします。

空港アクセス鉄道の整備の今年度の取り組みでございます。

一番下の丸でございますが、空港アクセス鉄道につきましては、独立行政法人鉄道・運輸機構に調査業務を委託して検討を進めております。同機構から、年度末に事業費や需要予測、収支採算性、費用対効果等を取りまとめた調査報告書を受領することとしております。

調査結果につきましては、報告書の内容を精査した上で、本委員会等でしっかり御報告をしたいと考えてございます。

高速交通体系については以上でございます。

○坂井都市計画課長 都市計画課でございます。

資料の55ページをごらん願います。

ローマ数字Ⅱ、熊本都市圏交通に関する件で、前回から変更のありました箇所を中心に御説明いたします。

少し飛びますが、資料の60ページをお願いいたします。

熊本都市圏交通施策の主な取り組みといたしまして、4) 将来の熊本都市道路ネットワークの検討についてでございます。

資料の61ページをごらんください。

変更のありました箇所は、一番上の白丸になります。

第3回検討会を昨年12月に開催しました。検討会では、熊本市を中心とした新たに必要な道路ネットワークの機能イメージとして、以下の①から③を委員の間で共有いたしました。

①は、熊本市中心部と高速道路インターチェンジのアクセス強化を図ること。②は、熊本市中心部と広域交通拠点の人や物の流れの効率化を図ること。③は、熊本市中心部を通過する国道3号線の道路空間を再編し、広域的な交通を分担すること。

右の図が、熊本市を中心とした新たに必要な道路ネットワークの機能のイメージでございます。

今後の取り組みといたしまして、道路ネットワークの長期対策については、熊本県幹線道路協議会に報告し、県の新たな広域道路交通計画へ反映していきます。短期対策及び中期対策につきましては、引き続き議論を深めていく予定でございます。

都市計画課からの説明は以上でございます。

○重見交通政策課長 交通政策課でございます。

62ページをお願いいたします。

(2) 公共交通機関の利用促進について。

1) バスの利便性向上の部分でございます。

上から2つ目の丸をごらんください。

県内バス事業者5社と県、熊本市で、熊本におけるバス交通のあり方検討会の検討成果といたしまして、バス事業者5社が独占禁止

法特例法の成立後に共同経営の枠組みに移行し、会社間の垣根を越えて路線再編や利用促進等の取り組みを実施していくことを確認いたしました。

63ページに移っていただきまして、今後の取り組みのところでございます。

上から1つ目の丸でございませぬ。

本年4月には、バス事業者により共同経営準備室が設置されます。独禁法特例法の施行後、速やかに共同経営が実施できるよう、同室で進められるあるべきバス路線網の実現に向けた取り組みの検討や共同経営計画の作成等について、必要な支援を行ってまいります。

次の丸でございませぬ。

ことしの秋に、仮称ではございますが、バス・電車100円の日が実施される予定であり、公共交通機関の利用促進や県内各地域の活性化を図ってまいります。

資料の説明につきましては以上でございませぬ。御審議のほどよろしくお願ひいたします。

○高木健次委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入りたいと思ひます。

何かありませんか。

○前川収委員 2つあります。1つは、12ページ、中九州横断道路についてでございますが、御説明のように、もう既に県でやるべき環境影響評価や都市計画手続等々については、全て1月中に終了したというお話を伺っております。大変短期間で頑張っていたことに敬意を表したいというふうに思っておりますが、新年度事業化というものを目標にやってくるわけでございますが、その見通しについて御所見をお聞かせいただきたいというふうに思ひます。

もう一つは、61ページ、都市圏交通、熊本

都市道路ネットワークというものの検討状況についてでございますが、御報告では12月25日に会議を開いたということではございますが、なかなか、これまでの経験で言えば、こういう会議はずっと開いていかれるんですけども、具体的な方法論が生まれてこないんですね。

例えば、3号線の空間をとという話がちょっとありましたけれども、じゃあ3号線はソフトじゃなくてハードとしてどうやるのかということについて、やっぱりきっちり議論していただかないと、結局このイメージのままだけだったら前と何も変わらないという状況になると思ひますし、また、インターチェンジアクセスや、それから空港アクセス、それとさっき言ひました3号線、この3つの部分というのは、かなりハードな部分、ハード整備の部分で頑張らないとできないんじゃないかなというふうに思っておりますけれども、そのハード整備について、何をどうやるのかという具体的な話まではまだ行ってないということですかね。お答えをお願いします。

○亀崎道路整備課長 まず、中九州横断道路の見通しということではございませぬ。

中九州横断道路につきましては、委員の皆様方の御支援をいただき、これまでたびたび要望活動を行ってきたところでございませぬ。

東京の半蔵門ホテルでの朝食会を兼ねた大会であるとか、つい先月20日でございますが、チーム熊本として、議連の前川会長のお声かけにより、国会議員もほぼ全ての先生方に出席していただいたということで、非常に我々としては心強いところでございまして、国土交通省の職員の皆様からも、非常に迫力のある要望であったということも聞いております。

これまでチーム熊本として、この中九州横断道路、これはやはり我々の悲願と申ひますか、これは絶対落とせないと思ひますか、こ

これは達成しなければならない事業かなというふうに考えております。

そういったことから、これまで要望活動を行ってきております。そういった意味においては、一定の手応えと申しますか、それは感じておるところでございますけれども、まだまだ手続としては、国におきましては、新規採択時評価と先ほど申し上げましたが、九州地方整備局で外部の有識者を含めた委員会がありますし、東京においては、その後、また道路局においてそういった委員会が開催される予定でございます。

我々としては、最後まで油断することなく、しっかりと県のその必要性なり要望というのも伝えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○坂井都市計画長 都市計画課でございます。

委員御質問の件につきまして、まず、機能イメージを図であらわしております。青で説明している部分につきましては、長期対策が必要というところで、これにつきましては当然ハード整備等考えられます。ハード整備になった場合は、長期に時間が必要になってくるという形になります。

これをどういうふうに次のステップをやっていくかということで、今後の取り組みのところに表示しておりますけれども、この必要な道路につきましては、熊本県の幹線協議会のほうに報告しまして、計画としてしっかりそこに位置づけた上で、ハード整備が必要であれば、その部分については計画的に進めていくというステップを踏まなければならないというふうに思っております。

ただ、中期的な対策、また短期的な対策については、もう既に、国、県、市、それぞれどういうことをやるかというのをしっかり押さえながら、今進めているところでございます。

以上でございます。

○前川収委員 中九州横断道路については、ぜひいろんな手続をしっかりと見きわめながら、新年度事業化に向けて、情報も共有していただきながら頑張っていかなきゃいけないと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、熊本都市道路ネットワークについては、済みません、短期、それから中期でやる部分については、まあ前提にももちろんあるわけでしょうけれども、その中期の部分に立体化というものも中に入っていて、そこは間違いなくハードがいるわけでございます。私の感覚でいくと、もちろんソフト対策はとても大事で、ソフト対策でクリアできる部分はしっかりクリアしてもらいたいと思っておりますが、ソフトだけでは多分できないだろうと。やっぱり何らかハード対策、この中期計画の中にもございますように、ハード対策がなければ多分解消、まあ全部解消するのは非常に難しいかもしれませんが、少なくともあの全国ワーストと言われるような状況から脱していくということに対しては、やっぱり中長期の計画をしっかりとやらないとだめだと思うんですね。

これは、これまでも何度も言ってきましたし、県民的な議論も含めてでありますけれども、検討は随分なさっているという話ですけども、前から言われているわけでありまして、検討しないと先に進めないことは十分わかりますが、これまでの蓄積の検討もあつたわけでありまして、この検討の段階から次のステップに移るということを急がなきゃいけないというふうに思っていて、それが具体的な計画をいつまでにつくるという、いつまでという部分だと思うんですね。つまり、中長期、中期のハード、長期のハードをいつまでにその計画をつくと申しますか、でき上がるのはまだもうちょっと先になると思



ますけれども、その計画というのはいつまでにつくるつもりですか。

○宮部土木部長 済みません、この幹線道路協議会の会長を一応土木部長のほうがやっていますので、私のほうからちょっとお答えさせていただきます。

この幹線道路協議会の中で、今回の長期に向けたビジョンも含めた具体的な道路に関しては、位置づけというのは、この幹線協の中でやっていこうというふうに考えています。

ただ、当初は今年度でやろうかと思っていたんですが、ちょっとそこが全国的なスケジュールもあって、ちょっと今間延びしております。今年度にかかれるかというのは、ちょっと今のところ定かじゃないんですが、少なくとも早いうちにこの位置づけというのはしっかりとやらせていただこうかというふうに思っています。私の希望としては、もう来年度にも開いていきたいというふうに思っているところでございます。

ただ、その中で、じゃあ具体的に位置づけされた中で、今後は具体的な計画、先ほど前川委員のほうからありました、2階建てにしていくのか、どういう構造でやっていくのかというのに関しては、またそれから、その位置づけを踏まえた上で詳細な計画等は一步一步やっていくことになるんじゃないかなというふうに思っています。

ただ、1つだけ言えるのは、私どもが考えているこの都市圏の問題というのは、やはり僕らとしても喫緊の課題というふうに思っておりますので、そこについては、スピード感を緩めることなく、しっかりとやらせていただこうかと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

○前川収委員 関係機関との協議等々もあるので、そんなにすぐにできないとおっしゃるのはよくわかりますが、いずれにしてもこの

課題というのは、別に最近出てきた話じゃなくて、もう何十年も前からずっと議論されてきている、まあその議論が結実したのかどうかわかりませんが、実行されずに、結果として全国で最も渋滞がひどい地域に、まあ大都市圏以外ではですね、なってしまった経緯があるわけですから、今始まった話じゃないというのは、多分私だけじゃなくて、県民多くの皆さん方の認識だというふうに受けとめるべきだと思っております。

その上で、これまでもいろんな方法論については、そんなにたくさん方法があるとはちょっと思えないので、まああれば教えてほしいんですけども、ある程度の段階で、もうこれをこういうやり方でやりますという計画は早くつくってもらいたいと思うし、それをいつまでにその計画をつくるか、つまりこういうやり方、例えば3号線を2階建てでいきますと、インターチェンジアクセスについてはこういうことかという話を具体的な絵にして示してもらいたいというのがいつなのかというのを、まあそこからももちろん大事ですよ。絵だけ書いて先に行かないというわけにはいかないし、関係機関との協議は要ると思いますから、それがいつなのかということもちょっと聞きたいんです。

じゃあ、済みません、聞きます。いつを目標になさっていらっしゃるのか。その計画をちゃんと作り上げるのがいつというふうに目標を定めていらっしゃるのかね。

○宮部土木部長 早ければ来年度を目標に頑張らせていただこうかというふうに思っております。

○前川収委員 ぜひ新年度中ぐらいにはですね、具体的な絵が見えて、将来的にはこうすることによって渋滞解消できるんだという、その説明が我々にもできるようにしていただきたい。その後は、事業化して、実際に建設

をしなきゃいけない、それはそれでまた大変だと思えますけれども、それまで含めてしっかり議論していただければと思います。新年度中にですね。目標だから。関係機関ともちゃんと協議してやってもらわなきゃいけないので、そのくらいのスピード感、それでも少し遅いかな。ことしの夏ぐらいまでにはと答えてくれるならありがたかったんだけど、それは皆さんの仕事の中ではほかの機関もあるでしょうからね。

じゃあ、わかりました。新年度末までには具体的な計画を示していただくということで、土木部長、後輩の皆さんにしっかりお伝えしていただいて、ここで公式発言に残していただきましたので、よろしく願いいたします。

以上です。

○高木健次委員長 ほかにありませんか。

○前田憲秀委員 前川委員が言われたこと、61ページなんですけれども、この右下の図ですね。ルートや位置を示すものではありませんという断り書きはあるんですけれども、中心地からいわゆるインターチェンジアクセス約10分、上のほう、これは熊本インターだと思います。下のほうは、これは御船になるんでしょうか、約10分。これって、今でも多分救急車でも無理な時間ですよ。

本当先ほどの議論のとおり、空港アクセスは3つぼんと出て、これが絶対有利という形で出ましたね。ここも、何かイメージできるものも、先ほどの2階建てなのか、道路の拡幅なのか、どういうことがあり得るのかというのもぜひ示してほしいなと思うんですけれども、坂井課長、もう最後なので、何かありますか。

○坂井都市計画長 図のほうで時間等を示させていただきますいております。熊本中心部から高

速道路まで約10キロあります。時速60キロの車で行って10分というイメージを書かさせていただきますいております。

そうすると、どういう形の構造物をつくるかというのはちょっと置いていて、機能的にどういう機能が必要ですよというイメージを統一するために、時間をちょっと埋めさせていただきますところでございます。

以上です。

○前田憲秀委員 ぜひ進むように、何かできれば夢を持つような、こうなればこういうことが実現できるんだというような、来年度ということですので、しっかり頑張ってくださいと思います。

あと1点だけ、39ページ。

ラオス線についてなんですけれども、発表があつていきますように、3月18日の就航の予定は延期ということで、まあこれは結果論ですけれども、今コロナウイルス等さまざま自粛ムードがあるので、結果的にはよかったんじゃないかなと個人的には思っております。

そんな中で、先月だったですか、内田局長が現地の、あれはジャパンエキスポ、何か熊本県のブースでしっかりアピールをされたように聞いておりますけれども、何かありますか。

○内田交通政策・情報局長 ラオス線のことについてでございますけれども、私は、先月1月30日から首都ビエンチャンのほうを訪ねまして、ラオス国営航空、それから日本の国土交通省に当たります公共事業運輸省、それから日本の官邸に当たります首相府のほうを、日本大使館等に同行いただいて訪問したところでございます。

それぞれ延期になりました理由ですとか背景等を伺うとともに、これからどういうふうな方策をもって日本線のほうを就航しようと思っているかという部分をそれぞれ確認させ

ていただきました。

なかなかラオスという国は、社会主義国でございまして、やはりピラミッド型でございまして、基本的に官邸がいろいろ決めて、それを公共事業運輸省、それからラオス国営航空のほうにおおしていくというような形になってございます。そういうことで、今回、首相府のほうも訪ねさせていただいたという状況でございます。

まず、先方からの説明がございましたのは、ラオスの国の財政状況が非常に厳しいという状況になっています。そういう中で、国営事業、さまざま水力発電ですとかあるいは今回のような航空会社もそうなんですけれども、国営事業についてまず見直しを行っていますという状況がございました。

そういう中で、ラオス航空のほうとしましては、熊本のほうに週4便で飛ばしたいという計画を出し、日本の国交省の許可を得たところだったんですけれども、一旦それをラオス政府の首相府のほうに預かれました、財政再建という観点からもう一回チェックをしているんだというような御説明がありました。

一方で、ラオスと日本というのは、深い昔からの友好的なつながりがございまして、ことしの3月をもって国交65周年を実は迎えるだということでございました。日本からは、たくさんのODAもいただいているし、それから、トヨタを初めとして200社近くの日本の企業がラオスのほうに進出していただいている状況なので、ぜひ、この65周年という機会に、日本に対しては直行便を飛ばしたいという気持ちは変わらないと、もう一回、例えば需要関係とか、あるいはラオス航空が週4便で飛ばす計画書あたりをもう一回見直させていただきながら、より飛ばす方向で検討させてほしいというような御説明があったところでございまして、残念ながら、じゃあいつ飛ばすのかということまではまだお示しは

なかったんですけれども、鋭意、熊本県、それから日本政府、それから熊本国際空港株式会社とラオス航空、ラオス政府のほうと、引き続き飛ばす方向で調整をしていきたいと思います。

今先生からの御質問がありましたジャパンエキスポにつきましては、日本大使館が主催しまして、そういう65周年という節目もあり、日本のことをよりラオスの皆さん方に知っていただくということで、首都ビエンチャンのほうで開かれたものでございます。

今回はくまモンに登場していただきまして、それから、熊本市からはおもてなし武將隊のほうにも登場していただきました。

非常にくまモンにつきましては、もう子供たちから大人気でございまして、たちまち周りに子供たちが集まってタッチしているような状況でございまして、まだまだくまモンの知名度というのはなかったんですけれども、今回の1回だけでもそれだけ引きつける力があるということが確認できましたものですから、ここは商工観光労働部あるいは知事公室とも連携しまして、引き続きくまモンの知名度をラオスでも高めていこうと。

あわせて、ぜひ、日本というのは、熊本というのはこんなすばらしいんだということをPRさせていただきましたものですから、これをきっかけに熊本にしっかり飛ばしていただくということについては、意識づけができたのではないかなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○前田憲秀委員 ありがとうございます。

経済環境委員会あたりでは報告があるんですかね。私も、SNSでしかそういう情報は知り得なかったもので、内田局長も頑張っているんだと、熊本県のブースでラオスにアピールしているなど様子は確認できたんですけ

れども、もともと、以前は岩下委員のほうから戦中、戦前、戦後のお話なんかもありましたけれども、ラオスというのはどういう国なんだと、首都はどこなんだと、いろんな経緯はともかく、日本への初の定期便を熊本にということにやっぱりなっているわけですから、やっぱり好機として捉えるべきだなというふうに私は思うんですね。

ですから、さまざまな今説明があったような諸事情で延期という形にはなっていますけれども、最初に言いましたように、こういう御時世なので延期もやむなしということもあったかもしれませんし、それがまた逆に好機と捉えて、しっかり熊本県側もラオスを知るきっかけ、何かいろんな経済団体のグループもできたみたいな報道も聞きましたけれども、もう少し報道の皆さんも巻き込んで、ラオスと熊本のつながりというのをしっかりつなげる動きを考えていただきたいというふうに思います。

○内田交通政策・情報局長 御示唆ありがとうございます。

委員おっしゃいますように、やはりマスコミの方々にもラオスの状況あたりについてはきちんとお伝えをしつつ、非常に日本に対して親日というのが、もう接しただけですごくわかりますので、非常に国民は優しい方、気持ちは優しい方だし、犯罪率は低うございますものですから、そういう部分も含めまして、しっかり日本のほうに、あるいはラオスに対しては熊本のことをしっかりPRしてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○前田憲秀委員 ぜひお願いしたいと思います。

私も、いろんな経済活動をされている方とのSNSでしか情報はないんですけども、非常に友好的に動いているという話も聞いて

いますので、やっぱり日本初の定期便が熊本でと、何でというところからも熊本に興味を持ってもらう、そういうのを非常に私は好機じゃないかなと思いますので、各方面に働きかけて頑張っていただきたいと思います。

以上です。

○高木健次委員長 ほかにありませんか。

○鎌田聡委員 51ページですね。アクセス鉄道の話ですけども、ここに、年度末に調査結果については報告書を受領するということが記載がしてありまして、それを精査した上で本委員会において調査結果を報告予定ということで、あと一般質問の中でも申し上げましたし、前回の委員会でも、できるだけ年度内の早いうちにとということとあわせて、やっぱり県民の大きな関心事でもあり、多額の費用を要する事業なので、知事選の中でしっかりとそのことについて、やっぱり理解を求めするためにも早目に出してもらいたいという話をしましたけれども、そういったお話は、鉄道・運輸機構には話されたんですか。

○重見交通政策課長 今年度調査のお話でしたが、繰り返しになります。前回委員会、それから今回の質問でも知事からお答えしたとおり、現在、昨年度までは概略調査を行っておりました。今年度は、鉄道・運輸機構に委託をいたしまして、詳細な調査、それは具体的なルートであったり、あるいは事業採算性、そういったものをしっかり精査中でございます。

これが、調査の結果が来るのが年度末、年度内の予定となつてございますので、その後、県においてまずしっかり内容を精査した後公表するということにしておりますので、調査結果はそういうスケジュール感でお示しするというを考えておるといふところで

○鎌田聡委員 結果をお示しするのは、ここに書いてあるからわかります。答弁でもいただいたので。この前言ったときに、その後に鉄道・運輸機構にできるだけ早目に出してほしいという話はされたんですか。

○重見交通政策課長 今回鉄道・運輸機構にお願いしているのは、非常に専門性が高く、かつ中立性、客観性を持った組織であるというのは国の政府系の機関でございます。そこは、我々、去年とかは県がまさに主体としてやっておりましたが、客観性を持たせるために今年度調査をしております、そもそも年度内の調査というのを機構と契約しているわけで、我々は、その部分については、ある意味客観的な調査に介入と申しましうか、入るようなことはできないと考えておりますので、そこは引き続き年度内の調査ということで鉄道・運輸機構にはお願いしているところです。

○鎌田聡委員 じゃあ、早目という話はされてないということなので、客観的調査だから入れないという話がありましたけれども、やっぱり途中経過を、これは丸投げじゃなくて、しっかりと県としても私はやっぱり情報を交換しながら進めていくべき話だろうし、鉄道・運輸機構も、技術的検討と需要見込みの検討をコンサルに投げていると思うんですね。で、技術的検討は2月28日が期限だというふうに聞いていますけれども、2月28日期限であるなら、それから結果を受け取って精査をすれば、3月中には県としての考え方は示せるんじゃないかなと思うんですね。3月中、3月31日じゃないですよ、真ん中ぐらいにですね。そういったことも含みで対応していただきたいんですが、できるだけ早くということとは考えてないですか。

○山川企画振興部長 常々申し上げてきまし

たとおり、私どもは、本当に働き方改革とかいろいろある中でも、部下が倒れない程度に、本当にぎりぎり進めているつもりで私はあります。

そういう上で申し上げますと、委員の問題意識はわかるんですが、この需要予測にしても、具体的にどういうルートにするのかにしても、B/Cにしても、これは先生方当然ながら御存じだと思いますけれども、密接にかかわっているわけでありまして、どれか切り離してこれだけ途中のものをということとは私はできないと思うし、そういうものを先生方にお示しして県民の皆さんに見ていただくことは、私自身の説明が中途半端になるものですから、それはふさわしくないことだと私は思っていますので、そこはぜひ御理解いただきたいと思います。

あともう1つ、繰り返しになりますけれども、私どもは、部下が倒れない程度に、本当に全力でこの件については進めてまいります。

○鎌田聡委員 部下を倒すまでやれと、急げという話はしてないんですよ。そういうやっぱり県民に理解を得るためには、県民の皆さんにできるだけ広くわかっているためには、そしてまたこの事業をしっかりとその後進めていくのであれば、やっぱりそういった知事選というのは大きな機会であり、一つのチャンスと言えばチャンスなんですよ。そういう機会にやっぱり示すべきだということで申し上げてきたのであって、そこが半年も前倒せという話じゃないんですよ。半月ぐらいでいいんです。半月というか、1カ月ぐらい前倒せばいい話であって、それがなぜできなかったのかなというふうに思いましたので。

○山川企画振興部長 繰り返しになって申しわけないんですが、その先生の問題意識はよ

くわかるんですけども、我々としては、全力で急いできている中、去年の4月にこういうスケジュールでということを経営さんにも相当無理をお願いしてやっているような状況でございますので、そこはぜひ御理解いただきたいなと思っています。

○鎌田聡委員 もうそういうことなら、なかなかこれは難しい話で仕方ないと思う。非常に、でも残念ですね。やっぱりそういったできるだけ早目に出そうという姿勢を持って取り組んでほしかったというふうに思いますし、それと、済みません、1つちょっとこれはまた確認で教えていただきたいんですけども、前回平成20年度に1回検討されていますよね、平成20年度に。あのときに、いわゆるB/C、合わないということで断念されておりますけれども、あのときの事業費というのは幾らだったんですかね。三里木からたしかルートでやったと思いますけれども。

○重見交通政策課長 約10年前の調査で言えば、三里木から空港まで280億円程度という結果でございました。

○鎌田聡委員 それも鉄道・運輸機構がはじいたんですか。

○内田交通政策・情報局長 済みません、10年前、私がちょうど担当しておりましたものですから。

そのときは、全く県独自に民間のコンサルタントに委託してはじいた金額でございます。ですから、今回のようなJRの負担スキームですとか国の補助のスキーム等は、そこまで考慮した数字ではございません。

○鎌田聡委員 今回は、額的にはやっぱり金額がはね上がっているというのは確かだろうし、それから、詳細の今年度中どのくらいに

なるか見通しはできませんけれども、やっぱりできるだけ現在の詳細な数字というのは早く出すべきだということとあわせて、やっぱり前はたしか1日2,500人ぐらいを想定されてはじいた数字だと思うので、今回は6,900人と倍以上になっていますので、その根拠も含めて、しっかりとやっぱりこれは説明をすべき事業だと思いますから、なかなか期限的にはちょっとこちらと考え方が合いませんけれども、しっかりと丁寧に今後進めていっていただきたいということを申し上げておきますし、あわせて、先ほどの都市圏道路ネットワークの話でも、空港アクセスで約20分で行けるような道路を今後つくっていくわけですから、そういったところともあわせて、こういうのができるのであれば、まあバスもひゅっと20分で行くわけですから、そことの比較検討、こういったものも必要になってくるだろうと思いますので、今の調査の中でしっかりと出していただいた上で、あわせて来年度中にはこの道路のほうの絵も出てくるということでもありますから、そういったのも含めて、この事業をどう進めていくのかという検討を進めていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○宮部土木部長 私のほうでちょっと発言させていただいた来年度中の計画という話の中で、今回の空港までのアクセスの話なんですけれども、これに関しても、基本的には計画という形を今回お示ししようということで今考えておまして、その中で、先ほどあった構造的なものとか、例えば有料なのか無料なのかとか、いろんな事業手法があります。それに対しては、それから進めてまいりますので、今やっているこのアクセス鉄道の時間軸とは、全くちょっと多分合わないというふうに僕らも思っております。

ただ、その中で、知事のほうからも発言がありましたけれども、基本的に1つのアクセ

スのルートだけではなくて、いろんな手法が重なって、そこを使われる方が要は選択できるような、まあ福岡の話をちょっと知事のほうもされたんですが、そのようなイメージでおりますので、アクセスの道路とアクセス鉄道を同じ時間軸で、今のところ整備自体もそこについてはちょっと間に合わないとか、合わないというふうに私も思っていますので、そこはちょっと切り離して、構想として考えさせていただければというふうに思っております。

以上です。

○鎌田聡委員 それは進める側の事情であって、やっぱり県民としては、こういうのできるのであれば、できるだけ時間軸を合わせて比較検討させてもらいたいという思いもありますので、お金がたくさんあるなら両方やればいい話でありますけれども、どちらがやっぱり有効なのかということも検討するためにも、そこはぜひ努力はしていただきたいし、複数のルートという話もございました。アクセス鉄道も、豊肥本線を利用するやつでありますけれども、やっぱり複数のルートがなければ、足りないと思いますね。道路も含めてですね。

やっぱり豊肥本線も、御存じのとおり、ことしは2回ほど事故でとまっているんですよ。そういうリスクが、ことしだけじゃなくて、いつも何かあそこは途中で事故があったら、単線ですからすぐとまりますので、そういったリスク回避も含めて、やっぱり時間軸を合わせて道路のほうも進めていただきたいということを申し上げておきたいと思えます。

以上です。

○高木健次委員長 ほかにありませんか。

○岩下栄一委員 ラオスの問題ですけれど

も、先ほど前田委員から非常に適切な御意見がございましたけれども、内田情報局長に再度お尋ねしますけれども、一説には、向こうはスタッフ不足で、ノウハウも何もないし、国営航空会社のくせに全くの体制ができてないという情報があります。

もう一つは、何か政権内の政争が激しくて、それが響いているんじゃないかという見方もありますけれども、その点、向こうにおいてになって随分活躍されておいでになりましたけれども、何かないですかね、情報は。

○内田交通政策・情報局長 ありがとうございます。

まず、ラオス国営航空につきましては、既に、例えば韓国・仁川線ですとかあるいは中国本土に向けての路線も既に持っておりますので、きちっと安全に定時運航もなされておりますので、スタッフ不足という点はないかと思えます。

ただ、今回、日本政府、それから熊本県側とラオス航空と折衝している中で、例えば今着陸料の免除ですとかあるいは日本側でしっかりラオス側の分も含めてPRやりますよというようなお話をしますと、非常に向こうはびっくりされると、そんな支援があるんですかというようなことを、何か初めてそんなふうに日本からの提案を受けましたというようなこととお話をされる状況でありますので、その辺については、ちょっと非常に日本からの今回の提案というのは斬新に受けとめられていらっしゃるんだなというふうに思いました。

それから、政府につきましては、いろいろその関係機関、日本大使館を通じまして情報を収集しておりますけれども、非常に逆に今安定しているというふうに伺っているところでございます。

以上です。

○岩下栄一委員 わかりました。

何か私の情報が間違うとったんですね。私のラオスに関する情報源は、県選出の木原国会議員の情報ですけれども、大した情報源じゃなかったわけですね。

ということで、委員長、もう1つ。

ソウル線が復活したことは大変喜ばしいことですが、これは所管違いで厚生常任委員会の話かもしれませんが、熊本の場合は、海外便の検疫体制とか、これはどんな感じですかね。

○重見交通政策課長 新型コロナウイルス、今流行しておりますが、これの対策の御質問がございました。

まず空港での取り組みでございますが、まず、国として厚生労働省の要請に基づきまして、中国からの到着便扱いとなります香港エクスプレスにおいて、乗客の方に対し、せきや発熱等の症状がある場合あるいは解熱剤等を服用している場合は、検疫官に申し出るよう機内でしっかりアナウンスし、それから健康カードというものを配付して、周知をしっかりと実施しているというところでございます。

それから、これは中国、香港からの到着便に限らず、国際線の乗客に対しましては、飛行機をおりた後に、国際線のビル内の検疫検査場で、サーモグラフィという体温がわかる器械がございますが、これによる体温確認を検疫所のほうで実施しているというところでございます。

さらに、中国便の乗客で、症状はなくても、これは国としての対策ですが、14日以内の湖北省、それから浙江省での滞在歴がある場合、あるいは両省発行のパスポートを持つ外国の方である場合は、国によって口頭審理の上、特別な事情がなければ国内への上陸は拒否されるという扱いを今されているというところで、しっかりと対策はとれているという

状況でございます。

○岩下栄一委員 今のところは、熊本県では患者が出ておりませんものですから、安心しておりますけれども、将来的にもっと国際化が進んでどんどん外国からやってみえると、違う病気が来るかもしれぬし、まあ検疫体制をよろしく願いいたします。

○高木健次委員長 ほかにありませんか。

○田代国広委員 ラオス線について1点お尋ねいたします。

いろいろな、ラオス線が熊本にできると聞いたとき、大変期待といたしますか、ある意味でうれしく思ったんですけれども、その後、足踏み状態と申しますか、なってしまって、大変憂慮しておるんですけれども、いろいろなネックがあつてなっていると思うんですけれども、素人的に考えるならあるいは一般的に考えるならば、いわゆる費用対効果ですね。費用対効果から見た場合は、どういった受けとめ方をされているんですか。

○重見交通政策課長 まず、費用対効果、今回就航が再延期になったというのは先ほど内田局長からもございましたとおり、やはりラオス政府のほうでしっかりとその採算性を見きわめようとか見きわめなさいという方針が出たために、例えば、今、旅行需要などの市場調査あるいはその利益、リスクといった収支の見きわめに時間を要しているという現状でございます。

その上で、ラオス航空としては、従来からこの委員会の中でも御説明をしたかと思いますが、やはりラオスだけの人口ですと、700万人ということで非常に小さくはございますが、ただ、隣国はタイという国がありまして、その北部はかなり大きな市場、そして、タイの方々は、最近、訪日客が非常に急増し



ているというところがございますから、ラオス航空は、ラオス国民の方だけではなくて、むしろその隣国であるタイ北部の方を取り入れることによって、それを日本に送客するというようなことを考えておられますので、その需要については、当然我々県としても、しっかりラオス航空と一緒に、その部分をしっかり整理した上で、最終的にはラオス航空はそのラオス政府、先ほどお話ございましたが、首相府というところを説得しないと就航が実現しないという状況でありますので、我々は、そこはしっかり関係者と一緒になって鋭意努力をしたいと思っているところでございます。

○高木健次委員長 ほかにはありませんか。

○松村秀逸委員 いろいろと質問というよりも、私は、熊本交通アクセス、61ページの特に東バイパスの連続立体化については、質問の中でしっかり訴えたところでございますので、ぜひ早目の結論を、どういう形であるかというのをぜひお願いしたいというのが1つと、それと、空港までの交通アクセスについても私は訴えたほうでございまして。特に、三里木から運動公園を抜けたものをぜひ、大量輸送というのでぜひこれは必要と思っておりますので、ぜひ前向きにさせていただく方向で今行っていますので、反対意見もありますが、ぜひ強く私はお願いしたいと思っております。

できるだけ採算が合うためにどうしたらいいかというのは、せんだって知事もおっしゃったように、いろんな企業を誘致したり、また大学も先にできるということでございまして、ぜひこれは熊本にとって必要と思っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

以上です。

○高木健次委員長 ほかにありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○高木健次委員長 なければ、質疑はこれで終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、引き続き審査する必要があると認められますので、本委員会を次期定例会まで継続する旨、会議規則第82条の規定に基づき、議長に申し出ることにしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○高木健次委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

次に、その他として何かありませんか。一なければ、本日の議題についてはこれで終了します。

これをもちまして本日の委員会を閉会します。

午前10時59分閉会

○高木健次委員長 なお、執行部において、本年3月末をもって退職される方が本日3名出席されております。3名の方々に、一言ずつ御挨拶をいただければと思っておりますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○高木健次委員長 それでは、一言ずつでも結構ですので、御挨拶をお願いします。

（土木部長、都市計画課長、警察本部交通部長の順に挨拶）

○高木健次委員長 3名の方、本当に大変御苦労さまでございました。

また、私のほうも、本年度最後の委員会でございますので、一言御挨拶申し上げたいと思っております。

昨年6月から、緒方副委員長の協力を得まして本委員会を進めてまいりましたが、委員の皆様方には熱心に御審議をいただき、心から感謝を申し上げたいと思っております。

また、山川部長、宮部土木部長を初め執行部の皆様方には、大変円滑な委員会運営に御

協力いただき、心からお礼を申し上げたいと思います。

本年度は、計4回の委員会審議のほかに、1月21日から23日まで、宮城県、岩手県のほうを視察させていただきまして、空港アクセス鉄道や環状道路整備、また震災からの復旧、復興の状況等に関する視察を行うなど、大変実のある委員会視察であったというふうに思っております。

また、阿蘇くまもと空港へのアクセス改善と熊本都市圏の交通渋滞の緩和は、これからの熊本地震からの創造的復興はもとより、本県の発展に欠かせない重要な課題でありまして、県民の関心も非常に高いように思われます。

今後、本委員会の審議も踏まえていただきまして、これからも着実にこの熊本県の発展に取り組んでいただければ本当にありがたいというふうに思っております。

最後になりましたけれども、各委員並びに執行部の皆様方の御健勝とこれからの御活躍を心から委員長として祈念を申し上げまして、簡単ですが、お礼の御挨拶にかえたいというふうに思います。

本当にありがとうございました。（拍手）

そして、緒方副委員長のほうからも一言お願い申し上げます。

○緒方勇二副委員長 この1年、高木委員長初め委員の皆さん方には御協力いただきまして、届かぬながらも副委員長を務めることができました。本当にありがとうございました。

また、執行部の皆様方にも、真摯な答弁をいただきまして、本当にありがとうございました。

今後、皆様方におかれましては、どうぞ職務に精励いただきますよう心から祈念申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

1年間大変お世話になりました。（拍手）

○高木健次委員長 ありがとうございます。これで委員会を閉じます。

本当にお疲れさまでした。

午前11時7分

---

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会委員長